【開催レポート】アヤセ未来会議 第1回キックオフミーティングを開催しました! 作成:株式会社エンパブリック

2022 年 11 月 12 日(土)13:30~16:00、アヤセ未来会議第 1 回キックオフイベントを、オーエス東京ビル 5 階で開催しました。

公募により選ばれた綾瀬地区とその近隣にお住いの18名と、見学者8名にご参加いただきました。





足立区は、令和4年5月20日、国(内閣府)から「SDGs未来都市」及び「自治体モデル事業」に選定されました。その第一歩として、綾瀬地区をフィールドとして、地域での思いを聴きあい対話しながら、アイデアを新しいアクションに育てていくのが目的です。





1. アヤセ未来会議について

まず初めに、足立区政策経営部 SDG s 未来都市推進担当課 伊東課長よりご挨拶とアヤセ未来会議が発足した背景と目的についてご説明がありました。



"SDGs (持続可能な開発目標) は 2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された, 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

足立区は内閣府の「SDGs未来都市」&「自治体モデル事業」に選出、認定されました。 持続可能なまちにするためには、活性化が必要ですが、新しい建物だけでは町は変わりませ ん。さらに、皆さんの力で盛り上げていければと思います。

一方で、まちを今後支えていくのは子どもたちです。アヤセ未来会議を通して、思いが実現 に至る過程を見せることは子どもたちのロールモデルになるのではと考えます。

みなさんの思いを横に繋げ、綾瀬を活性化していきましょう。"



令和 4 年度に、東京都内で「SDG s 未来都市」&「自治体モデル事業」ダブル選定を受けたのは、足立区のみです。区民の皆さんと一緒にこれからのまちを一緒に作っていきたいという強いメッセージを話しました。

2. オープニング・スピーチ「私×綾瀬×SDGsで未来を描こう」

次に、今回のアヤセ未来会議の全体ファシリテーターを務める(株)エンパブリック広石より、アヤセ未来会議を開催する目的とそのベースにある考え方である SDGs について説明をしました。



"地域にとっては、SDG s は社会貢献という意味だけではなく、新しいことを始める大きなチャンスとなるといいなと思います。

行政が社会貢献するのでもなく、誰一人取り残されず、安心して暮らせる持続可能な地域を みんなで一緒に考えてみましょう。

子供が生き生きと育てる環境は整っているか、シニア世代が豊かに暮らせる地域になっているか・・など。まちの人同士が思いを言葉にしてみんなで話し合い、対話し、トライアルすることが必要です。

一人一人にできることは限られていても、できることを持ち寄って、そこから新しい活動が 生まれて何かが始まるかもしれません。エンパブリックは場づくりのお手伝いをします。"



アヤセ未来会議は、単なるアイデア出しではなく、出てきた思いやアイデアを会議の参加者 同士や、地域の皆さんと一緒に対話によって育てていく場所です。

アヤセ未来会議をきっかけに、まちの皆さんが思いを共有し、できることを持ち寄っていく 動きが広がっていってほしいという思いを話しました。

3. 綾瀬地区の特徴について

続いて、エリアデザイン推進室エリアデザイン計画担当係長 齋藤さんより、「綾瀬地区に ついての基礎知識」の説明がありました。

斎藤さんは、都市計画、街づくりの専門家で、綾瀬に関わって4年目です。綾瀬ゾーンの人口推移とその要因、特徴的な馬蹄形の公園ができた背景など歴史も交えてお話頂きました。



"綾瀬ゾーンの人口は、44000人(足立区 69 万人)で、この 35 年間で 14000 人増加しています(2020 年度データ)。年齢別人口割合は、65 歳以上の高齢者層が少ない=若い人が多い、というのが特徴で、マンションが増えたことが要因。

綾瀬地区で特徴的な馬蹄形の公園ができた背景には、都市計画があります。1943 年綾瀬駅 (現:江北高校) 開業当初の都市計画では、町の東側に大きな公園を一つ作る予定だったの が、1959 年に区画整理事業から都市計画が変更され、現在の馬蹄形の公園が誕生しました。"



また、都市づくりに大切なこととして、"造られた建物・施設をどのように使うか"ということを挙げられました。

はじめの課長のお話にもあったように、きれいな建物を造るだけでなく、そこで生活している皆さんがどう活用できるかということも重要であるとお話しされていました。

4. ゲストトーク

綾瀬5丁目で、ケアマネ事務所兼住民の交流拠点「あやせのえんがわ」を運営されている、 森川公介氏さんのお話を聞きました。





"介護の仕事をしていた経験から、介護予防の推進・地域の絆づくりが必要と感じ、生産者と 消費者をつなぎ、地域交流ができることを期待して「あやせのえんがわ」や「こぢんまり商 店」をつくりました。

あやせのえんがわには「この地域に根を下ろし、愛おしい暮らしを作ります」という取り組みがあります。「ゆるいつながり」×「肯定感・幸福感」×「自発性・モチベーション」この3つがかけ合わさると愛おしい暮らしができるのではないかと考えています。

今後は、共感性が価値のある世の中になっていくと言われています。行政や経済にはできないことができる、新しい綾瀬のコミュニティーが生まれるのを期待しています。"

さらに、プレゼンテーション後にはファシリテーターの広石も交ぜたパネルトークを行い、 会場からのご質問にも答えました。





綾瀬が大好き、5丁目が特に好きとおっしゃる森川さんは足立区生まれ。小さいころご両親と一緒に見た綾瀬の駅前が未来的で、とても刺激的だったそう。

またそんな綾瀬になってほしい。そんな願いもあるようです。

5. ワークショップ

ワークショップでは、参加者のみなさんが4つのグループに分かれて、綾瀬に大切なテーマとそのテーマが実現した時のイメージを「えんたくん」という丸い模造紙に描き込みました。

5-1. ワークショップ①

「今綾瀬で大事にしたいテーマは?」"と題して、自分が感じている思いをキーワードにして模造紙に書きだしました。

その後、書いた内容やそこに込めた思いをグループ内で紹介し合い、問題意識のシェアをしました。





<皆さんから出てきたキーワード>

東綾瀬公園の活用/子育て・子どもと一緒に・子どもが主役/福祉・健康/多様性・新旧の混ざり合い・異世代交流/エンタメ・芸術・文化/里帰りしたい町/勉学の場/魅力的なお店のシェア/明るく安全な玄関口(駅前)/職と住の近接/「みんな」で、を大切に/本当の綾瀬を発見/地域と人とのつながり/車庫の最大活用/ブランディング・イメージアップ/他己実現(応援サイクル)

5-2. y-2

「いい綾瀬のまちの姿をえがこう!」"では、ワークショップ①で出されたキーワードをもとに、その内容を絵で表現しました。

その後、参加者全員に向けてグループごとに結果を発表しました。

《絵を描いている様子》





《チームでかいた模造紙を発表している様子》





6. ふりかえりワーク「アヤセ未来会議で、こんなこと考えたい、話したい、できたらいいな」

最後に、各グループで今日のふりかえりのシェアを行いました。

あるグループでは、全体の発表を通して感じたこととして、綾瀬は実際には治安もそれほど 悪くなく、住むと良さを実感するが、縁がない人は綾瀬を住む町の候補に思い浮かべない。 綾瀬の街の良さをどう伝えていくかが今後の課題の一つと、これから考えていきたいテー マの話が出てきました。

7. 綾瀬駅西口高架下の見学プログラム

会場でのプログラム終了後には、移動し綾瀬駅西口高架下の空き店舗の見学を行いました。 この空き店舗は、地域の交流拠点やアクションの実践場所となるような場所へ改装予定と いうことで、これからここがどんな場所になっていくのか、想像と期待が高まる時間でした。



7. 参加いただいた方々の声

- ・綾瀬のまちの可能性を感じた
- ・綾瀬の人との新しいつながりができた。つながれる可能性を感じた。新しい人に出会えた。
- ・参加者全員に自分なりの考え方やアイデアがあり、個性豊かで面白かった。
- ・理由はさまざまだが、綾瀬に何かしら関心を持っている人は多いということ。
- ・綾瀬は他に比べてコミュニティーが弱い、イベントなどの活動は少ないなと思っていたのですが、自分が知らないだけで、えんがわさんや駄菓子屋さん、東綾瀬団地など、色々やられてる方たちがいらっしゃることを知りました。同時に、綾瀬住民の私も知らないので、もっと認知度を上げるにはどうしたらいいのか、という課題を感じました。

8. 第2回(11/26)の日程

次回のアヤセ未来会議は、11/26(土)13:30~16:00 に開催します。

綾瀬地区で活動されている方々にお越しいただき、活動の視点から綾瀬をより深く知る機 会になる予定です。